

平成25年度登録販売者試験問題

茨城県

(平成25年9月13日 午後)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 この試験問題における「薬事法」は、薬事法の一部を改正する法律（平成18年法律第69号）による改正後の薬事法とします。
- 2 試験問題は問61から問120までの60問で、解答はすべて答案用紙に記入してください。1つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とします。
- 3 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 4 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払ってください。
- 5 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができます。

【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①受験番号に誤りが無いことを確認し、氏名、フリガナを記入してください。
- ②マークは、HBより濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。

マークの仕方 良い例 悪い例



薄い

短い

細い

はみでる

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 かぜの症状の緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてマオウとカンゾウの両方を含む製剤の組み合わせはどれか。

- a ま おうとう 麻黄湯
- b かっ こんとう 葛根湯
- c さい こけい し とう 柴胡桂枝湯
- d はん げ こうぼく とう 半夏厚朴湯
- e しょうせいりゅう とう 小青竜湯

- 1 (a, b, e) 2 (a, c, d) 3 (a, d, e)
 4 (b, c, d) 5 (b, c, e)

【問62】 かぜ薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

成分	主な配合目的
1 エテンザミド	— 発熱を鎮め、痛みを和らげる。
2 塩酸ジフェンヒドラミン	— くしゃみや鼻汁を抑える。
3 塩酸プソイドエフェドリン	— 鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を広げる。
4 臭化水素酸デキストロメトルファン	— <small>せき</small> 咳を抑える。
5 塩酸ブロムヘキシン	— 炎症による腫れを和らげる。

【問63】 化学的に合成された成分を含有する解熱鎮痛薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 多くの場合、体内でのプロスタグランジンの産生を亢進し、胃酸の分泌を増加させる。
- b イブプロフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられており、抗炎症作用は期待できない。
- c まれに重篤な副作用としてアスピリン喘息が知られているが、これはアスピリン特有の副作用ではない。
- d 腎臓での水分の再吸収を促して循環血流量を増し、発汗を促す作用があるとされる。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

【問64】 催眠鎮静薬に配合される成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分は、まれに眠気とは正反対の作用を生じて、神経過敏や興奮などが現れることがある。
- b ブロムワレリル尿素は、胎児障害の可能性があるため、妊婦または妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- c 生薬成分のみからなる鎮静薬は、作用が緩和なため、複数の鎮静薬を併用することが推奨される。
- d アリルイソプロピルアセチル尿素を含有する催眠鎮静薬を服用する場合は、飲酒を避ける必要はない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問65】 眠気防止薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カフェインには、反復して摂取すると習慣になりやすい性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」と注意喚起がなされている。
- b カフェインには、胃液の分泌を抑制する作用がある。
- c かぜ薬やアレルギー用薬を服用したことによる眠気を抑えるために眠気防止薬を使用するのは適切でない。
- d 眠気による倦怠感を和らげる補助成分として、ビタミンDが配合される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問66】 次の解熱鎮痛成分のうち、15歳未満の小児がインフルエンザにかかっている時に使用できるものはどれか。

- 1 アスピリン
- 2 エテンザミド
- 3 サリチルアミド
- 4 アセトアミノフェン
- 5 サザピリン

【問67】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b ジメンヒドリナートは、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c 臭化水素酸スコポラミンは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑えることを目的として配合される。
- d アミノ安息香酸エチルは、不安や緊張などを和らげることを目的として配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問68】 小児の瘧を適応症とする製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、瘧の虫などの症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 一般的に、小児鎮静薬は生薬成分を中心に配合されている。これは作用が穏やかで小さな子供に使用しても副作用が無いためである。
- c 主な漢方処方製剤としては、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏があり、いずれも構成生薬としてカンゾウを含む。
- d レイヨウカクは、ウシ科のサイガレイヨウの若い角を用いた生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

【問69】 塩酸メチルエフェドリンに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a マメ科のカンゾウに由来する成分で、気道粘膜からの分泌を促す作用がある。
- b 自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分である。
- c 心臓病、高血圧、糖尿病または甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- d 依存性がある成分であることに留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正

【問70】 鎮咳去痰薬に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リン酸ジヒドロコデインは、胃腸の運動を低下させる作用があり、副作用として便秘が現れることがある。
- b 塩酸メチルシステインは、痰の中の粘性蛋白質に作用してその粘りけを減少させる。
- c フマル酸クレマスチンは、気道粘膜からの粘液分泌を促進する作用を示す。
- d 塩化セチルピリジニウムは、口腔咽喉薬を兼ねたトローチ剤やドロップ剤に配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

【問71】 鎮咳去痰薬に配合される生薬成分と基原及び作用に関する次の組み合わせについて、誤っているものはどれか。

生薬成分	基原及び作用
1 キキョウ	— キキョウ科のキキョウの根を用いた生薬で、痰または痰を伴う咳に用いられる。
2 セネガ	— ヒメハギ科のセネガまたはその同属植物の葉を用いた生薬で、鎮咳作用を期待して用いられる。
3 バクモンドウ	— ユリ科のジャノヒゲまたはその同属植物の根の膨大部を用いた生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。
4 キョウニン	— バラ科のアンズの種子を用いた生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。

【問72】 強心薬に配合される成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエルまたはヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。
- b ジャコウは、シカ科のジャコウジカまたはその近縁動物の雄のジャコウ腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- c ゴオウは、シカ科のシベリアジカ、マンシュウアカジカの雄の幼角を用いた生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用がある。
- d ユウタンは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の殻内肉組織中に形成される球状の塊を粉末にしたもので、鎮静作用があるとされる。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, c) 5 (c, d)

【問 7 3】 高コレステロール改善薬に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リノール酸、ポリエノスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、HDLの分解を促し、また、LDLが形成される過程に働いて、LDLを増加させる効果を期待して用いられる。
- c リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあり、これは使用の中止を要する副作用である。
- d ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 7 4】 貧血用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。
- b コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は、空腹時よりも食後のほうが高い。
- d 補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正

【問75】 次の記述にあてはまる成分はどれか。

軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し超えたときに起こる動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}または暗示されていなければ、食品として流通することが可能となっており、そうした食品が合わせて摂取された場合、胃部不快感や吐き気、下痢等の副作用が現れやすくなる。

- 1 アスコルビン酸
- 2 ルチン
- 3 酢酸トコフェロール
- 4 ユビデカレノン
- 5 ヘプロニカート

【問76】 次の漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ^{うんけいとう}温経湯は、手足がほてり、唇が乾く人における、月経不順、更年期障害、神経症等に適すとされるが、胃腸の弱い人では、不向きとされる。
- b ^{りっくんしとう}六君子湯は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、のぼせて足冷え等を訴える人における、月経異常、更年期障害、肩こり等に適すとされるが、体の虚弱な人では不向きとされる。
- c ^{にんじんとう}人参湯は、比較的体力があり、のぼせて便秘しがちな人における月経不順、高血圧の随伴症状等に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腰痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- d ^{とうきしやくやくさん}当归芍薬散は、比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、めまい、動悸等を訴える人における、月経異常、更年期障害、頭重、足腰の冷え症等に適すとされるが、胃腸の弱い人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤

【問 7 7】 抗ヒスタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳内におけるヒスタミンによる働きを抑えることにより眠気を促す。
- b マレイン酸トリメブチンは、抗ヒスタミン成分としてかぜ薬に配合されている。
- c 抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問 7 8】 アレルギー用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギー用薬は、^{じん しん}蕁麻疹や^{しん}湿疹、かぶれ及びそれらに伴う皮膚の^{かゆ}痒みまたは鼻炎に用いられる。
- b 一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるものであり、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けることが望ましい。
- c ^{じん しん}蕁麻疹や鼻炎等のアレルギー症状に対する医薬品の使用は、基本的に対症療法である。
- d 鼻炎用内服薬と鼻炎用点鼻薬のように、内服薬と外用薬でも同じ成分または同種の作用を有する成分が重複することもあるが、それらは相互に影響し合わないため、併用することができる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 7 9】 鼻炎用点鼻薬に用いる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	成分	主な配合目的
1	塩化ベンゼトニウム	— 抗炎症
2	ジフェンヒドラミン	— 殺菌消毒
3	クロモグリク酸ナトリウム	— 抗アレルギー
4	塩酸ナファゾリン	— 抗ヒスタミン

【問 8 0】 一般用検査薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されるものを体外診断用医薬品という。
- b 体外診断用医薬品の多くは一般用医薬品となっているが、尿糖・尿蛋白検査薬及び妊娠検査薬については、すべて医療用医薬品となっている。
- c 検体中に存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を擬陰性という。
- d 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, c) 4 (b, d) 5 (c, d)

【問 8 1】 胃に作用する薬に含まれる成分とその主な配合目的に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分		配合目的
a	炭酸水素ナトリウム	—	消泡
b	ウルソデオキシコール酸	—	消化
c	テプレノン	—	健胃
d	ロートエキス	—	胃液分泌抑制

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, c) 5 (b, d)

【問 8 2】 次の健胃薬に含まれる生薬成分のうち、苦味による健胃作用を期待して用いられる成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オウバク
- b ケイヒ
- c コウボク
- d ゲンチアナ

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, c) 5 (b, d)

【問 8 3】 止瀉薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれる蛋白質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- 2 塩酸ロペラミドは、腸管の運動を低下させる作用を示すので、胃腸鎮痛鎮痙薬の併用は避ける必要がある。
- 3 クレオソートは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させる作用がある。
- 4 ビスマスを含む成分は、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされる。

【問 8 4】 瀉下薬であるヒマシ油に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。
- b 加香ヒマシ油は、腸内容物の緩和な排除を目的として用いられるため、3歳未満の乳幼児に使用可能である。
- c 防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒には使用を避ける必要がある。
- d 吸収された成分が乳汁中に移行しないため、母乳を与える女性でも安全に使用できる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 5】 腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）との相互作用に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬を併用した場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められる。
- 2 腸内細菌による分解を受けて作用する成分が配合された瀉下薬に、生菌成分が配合された整腸薬を併用した場合、瀉下作用が強く現れるおそれがある。
- 3 食品には緩下作用（緩和な瀉下作用）を示すものはないため、食品との相互作用は考慮する必要はない。
- 4 複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状等を生じるおそれがある。

【問 8 6】 浣腸薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 乳幼児では、安易な使用を避けることとされている。
- 2 繰り返し使用すると直腸の感受性が高まり効果が強くなる。
- 3 妊婦または妊娠していると思われる女性でも使用を避ける必要はない。
- 4 腹痛が著しい場合には、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれはない。

【問 8 7】 駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、^{ぎょう}蟯虫及び条虫（いわゆるサナダ虫など）である。
- b 腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- d 空腹時に使用することとされているものが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 8 8】 外用痔疾用薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 坐剤では、成分が直腸粘膜から吸収されて全身的な影響を生じることがある。
- b 局所麻酔成分には、リドカインがある。
- c 抗炎症成分には、クロタミトンがある。
- d 組織修復成分には、アラントインがある。

1 (a、b、c) 2 (a、b、d) 3 (a、c、d) 4 (b、c、d)

【問 8 9】 次のうち、皮膚症状（^{かゆ}痒み、^は腫れ等）を抑えるために配合されている抗ヒスタミン成分はどれか。

- 1 アンモニア
- 2 ケトプロフェン
- 3 酪酸ヒドロコルチゾン
- 4 マレイン酸クロルフェニラミン
- 5 ポリエチレンスルホン酸ナトリウム

【問 9 0】 外皮用薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カプサイシンは、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。
- b ヘパリン類似成分は、患部局所の血行を抑制することを目的として配合される場合がある。
- c ビタミンA油は、損傷皮膚の組織の修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- d 酸化亜鉛は、患部の^{たん}蛋白質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用を示す。

1 (a、b、c) 2 (a、b、d) 3 (a、c、d) 4 (b、c、d)

【問91】 外皮用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として、サリチル酸が用いられる。
- b 皮膚に細菌が感染して化膿する皮膚疾患に対する抗菌成分には、バシトラシンがある。
- c 頭皮・毛根に作用する配合成分として、塩化カルプロニウムがある。
- d クロラムフェニコールは、代表的な抗真菌成分の1つである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問92】 眼科用薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗菌性点眼薬は、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎（まぶたのただれ）等に用いられるものである。
- b コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行わないことが望ましい。
- c 医師から処方された点眼薬を使用している場合には、一般用医薬品の点眼薬を使用する前に、治療を行っている医師または処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされることが望ましい。
- d 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を閉じて、目頭を軽く押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込み、効果的とされる。

1 (a, b, c) 2 (a, b, d) 3 (a, c, d) 4 (b, c, d)

【問93】 眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼の際には、容器の先端を睫毛（まつげ）につけて、薬液が確実に目の中に入るように注意しながら1滴ずつ正確に点眼する。
- b 点眼薬1滴の薬液の量は、結膜囊の容積よりも少ないため、一度に何滴も点眼すると薬液が結膜囊内に行き渡り、効果的とされる。
- c サルファ剤には、ウイルスや真菌の感染に対する効果はない。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正

【問94】 歯や口中に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔^{くわう}粘膜の炎症を和らげることを目的に抗炎症成分のグリチルリチン酸二カリウムが用いられる。
- b シコンは、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して口内炎用薬に用いられる。
- c 内服で用いる歯槽^{そうのうろう}膿漏薬は、同じまたは同種の成分が配合された胃腸薬等と併用した場合、作用が減弱する。
- d 外用で用いる歯槽^{そうのうろう}膿漏薬には、歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、カルバゾクロムが配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問95】 滋養強壯保健薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスパラギン酸ナトリウムは、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。
- b 医薬部外品の保健薬の効能・効果の範囲は、滋養強壯、虚弱体質の改善、病中・病後の栄養補給等に限定されている。
- c ビタミンC主薬製剤は、シアノコバラミンが主薬として配合された製剤である。
- d 十全大補湯^{じゅうぜんたいほとう}は、病後の体力低下、疲労倦怠^{けん}、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問96】 漢方の基本的な考え方及び漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤においても、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることがある。
- b 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- c 漢方処方製剤は、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがあるが、定期的に専門家に相談する必要はない。
- d 患者の体質及び症状に合わないものが選択された場合には、効果が得られないばかりでなく、副作用を招きやすくなる。

1 (a, b, c) 2 (a, b, d) 3 (a, c, d) 4 (b, c, d)

【問97】 生薬製剤及び生薬成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 生薬製剤は、漢方処方製剤と同様に、使用する人の体質や症状その他の状態に適した配合を選択するという考え方に基づくものである。
- b 生薬製剤は、基本的に、湿気及び虫害などを避けて保存する必要がある。
- c ブクリョウは、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- d レンギョウは、健胃、消化促進の作用を期待して用いられる。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, c) 5 (b, d)

【問98】 次の記述のうち、消毒薬の誤用・事故等による中毒への応急処置として適当でないものはどれか。

- 1 誤って飲み込んだ場合、中毒物質の消化管からの吸収を遅らせ、粘膜を保護するために、誤飲してから数分以内に多量の牛乳や水を飲ませる。
- 2 酸やアルカリが目に入った場合、酸をアルカリで中和、またはアルカリを酸で中和するといった処置を行う。
- 3 原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合、自己判断で安易に吐き出させることは避ける。
- 4 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹼けんを用いて流水で皮膚を十分に水洗する。
- 5 誤って吸入し意識がない場合、新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。

【問 9 9】 消毒薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。
- b エタノールは脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返して使用する場合には適さない。
- c ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 1 0 0】 殺虫剤及び忌避剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 忌避剤は虫さされによる痒みや腫れなどの症状を和らげる効果がある。
- b ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- c 燻蒸処理を行う場合、ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われているため、殺虫効果を示さない。
- d 有機リン系殺虫成分は、アセチルコリンを分解する酵素（コリンエステラーゼ）と可逆的に結合してその働きを阻害する作用をもつ。
- e ピレスロイド系殺虫成分は、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 (a、b、c) | 2 (a、c、d) | 3 (a、d、e) |
| 4 (b、c、e) | 5 (b、d、e) | |

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書の内容は1年に一度定期的に改訂することとされ、改訂年月日を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。
- b 添付文書は開封時に一度目を通せば十分というものではなく、必要なときにいつでも取り出して読むことができるよう保管される必要がある。
- c 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その使用した一般用医薬品の添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	正	誤	誤

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「使用上の注意」は「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。
- b 一過性の軽い副作用（口の渇き、便秘、軟便、下痢）については、発現しても直ちに使用（服用）を中止する必要はないので、使用者が自らの判断で使用（服用）して差し支えない旨が記載されている。
- c 用法及び用量の項目では、年齢区分、1回用量、1日の使用回数等について一般の生活者に分かりやすく、表形式で示されるなど工夫して記載されている。
- d 一般用検査薬では、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するかまたは医師に相談する旨等が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

【問103】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意の項に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「服用時は飲酒しないこと」は、小児では通常当てはまる内容ではないので、摂取されたアルコールによって、医薬品の作用の増強、副作用を生じる危険性の増大等が予測される成分が配合されていても小児に使用される医薬品には記載しない。
- b 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないことと記載されている。
- c 使用上の注意の記載における「高齢者」とは、およその目安として75歳以上を指す。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

【問104】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 製品の特徴は、医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として必須記載とされている。
- b 通常の医薬品では、承認を受けた販売名が記載されている。
- c 薬効名とは、その医薬品の薬効または性質（例えば、主たる有効成分など）が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、記載が省略されることはない。
- d 使用方法や効能・効果が異なる一般用医薬品同士では、同一成分または類似の作用を有する成分が重複することはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問105】 一般用医薬品の添付文書の「保管及び取扱い上の注意」に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 眼科用薬では、「他の人と共用しないこと」と記載されている。
- b 医薬品は変質しやすいため、錠剤、カプセル剤、散剤は「冷蔵庫内に保管すること」と記載されている。
- c 小児の目のつくところに医薬品が置かれていた場合に、小児の誤飲事故が多く報告されていることから「小児の手の届かないところに保管すること」と記載されている。
- d 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替える場合は、「専門家に相談して、移し替えてもらうこと」と記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問106】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 効能または効果には、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途等が示されている。なお、「適応症」として記載されている場合もある。
- b 病気の予防・症状の改善につながる事項は、一般の生活者に分かりやすく示すために、必ず記載しなければならない。
- c 用法及び用量について、小児における使用に関して認められていない年齢区分（使用年齢の制限）がある医薬品を、当該年齢区分に当たる小児に使用する場合は、専門家に相談することと記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	正

【問107】 一般用医薬品の製品表示の読み方に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「保管及び取扱い上の注意」の項のうち、医薬品の保管に関する事項については、購入者が開封して製品を確かめることが重要であることから、その容器や包装には記載されない。
- b 毒薬または劇薬に該当する医薬品における表示や、その一般用医薬品が分類されたリスク区分を示す識別表示等の法定表示事項のほかにも、医薬品の製品表示として、購入者等における適切な医薬品の選択、適正な使用に資する様々な情報が記載されている。
- c 1回服用量中0.1 ml を越えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- d 外箱等には「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等、添付文書の必読に関する事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

【問108】 使用期限の表示に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後（ a ）を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はないが、流通管理等の便宜上、外箱等に記載されるのが通常となっている。

表示された「使用期限」は、（ b ）状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b
1	3年	開封
2	5年	未開封
3	3年	未開封
4	5年	開封

【問109】 医薬品医療機器情報提供ホームページに記載されている情報に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品等の製品回収に関する情報
- 2 新医薬品（新一般用医薬品を含む）等の承認情報
- 3 厚生労働省が製薬企業等に指示した緊急安全性情報、「使用上の注意」の改訂情報
- 4 企業が新医薬品の開発状況について発表した資料
- 5 企業や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報

【問110】 医薬品・医療機器等安全性情報の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)においては、医薬品（一般用医薬品を含む）、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報を原則、(b)とりまとめ、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、広く(c)向けに情報提供を行っている。

	a	b	c
1	厚生労働省	毎週	一般消費者
2	製薬企業	毎月	医薬関係者
3	製薬企業	毎週	一般消費者
4	厚生労働省	毎週	医薬関係者
5	厚生労働省	毎月	医薬関係者

【問111】 次の成分のうち、過剰のアルミニウムイオンが体内に貯留し、アルミニウム脳症、アルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項に、腎臓病の診断を受けた人と記載されているものはどれか。

- 1 塩酸パバペリン
- 2 スクラルファート
- 3 サントニン
- 4 塩化リゾチーム

【問112】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において「次の診断を受けた人」の項目欄に記載される基礎疾患と成分の組み合わせのうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	基礎疾患		成分
a	糖尿病	—	イブプロフェン
b	甲状腺疾患	—	グリセリン
c	腎臓病	—	エテンザミド
d	てんかん	—	ジプロフィリン

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (a, d) 4 (b, d) 5 (c, d)

【問113】 次の成分のうち、交感神経興奮作用により血圧を上昇させ、高血圧を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、高血圧の診断を受けた人は使用（服用）しないことと記載されているものはどれか。

- 1 塩酸プソイドエフェドリン
- 2 センノシド
- 3 イソプロピルアンチピリン
- 4 炭酸カルシウム

【問 1 1 4】 添付文書等の「してはいけないこと」の項目中で、「次の人は使用（服用）しないこと」として「妊婦または妊娠していると思われる人」と記載されている一般用医薬品と、その理由に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

一般用医薬品	理由
1 ケトプロフェンが配合された外用鎮痛消炎薬	— 接触皮膚炎、光線過敏症は妊娠中のみに誘発されるため。
2 ビタミンA主薬製剤	— 子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため。
3 塩酸ジフェンヒドラミンを主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬）	— 妊娠に伴う不眠は、睡眠改善薬の適用症状でないため。
4 トラネキサム酸が配合された口腔咽喉薬	— 胎児の先天性異常の発生が報告されているため。

【問 1 1 5】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬事法第 77 条の 4 の 2 第 2 項の規定により、登録販売者等は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生または拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を厚生労働大臣に報告しなければならないとされている。
- b 製薬企業等には、薬事法第 77 条の 4 の 2 第 1 項の規定に基づき、その製造販売をし、または承認を受けた医薬品について、その副作用等によるものと疑われる健康被害の発生等を知ったときは、その旨を定められた期限までに厚生労働大臣に報告することが義務づけられている。
- c 薬事法第 77 条の 3 第 2 項の規定により、登録販売者等は、厚生労働大臣が行う情報収集に協力することが義務づけられている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤

【問 1 1 6】 薬事法第77条の4の2第2項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告する必要がある。
- b 複数の専門家が医薬品の販売に携わっている場合は、それぞれが報告書を作成することとなっている。
- c 医薬部外品や化粧品による健康被害についても、自発的な情報提供への協力が要請されている。
- d 医薬品の副作用は、使用上の注意に記載されている症状のみであり、その他の症状の場合には報告書を作成する必要はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 1 1 7】 ^{しょうさい ことう}小柴胡湯による間質性肺炎に対して行われた安全対策に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

^{しょうさい ことう}小柴胡湯と (a) の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994年1月、(a) との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。しかし、それ以降も (b) が ^{しょうさい ことう}小柴胡湯を使用して間質性肺炎が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して (c) が指示された。

	a	b	c
1	血液製剤	慢性腎臓病患者	緊急安全性情報の配布
2	インターフェロン製剤	慢性腎臓病患者	製品の回収
3	血液製剤	慢性肝炎患者	製品の回収
4	インターフェロン製剤	慢性肝炎患者	緊急安全性情報の配布
5	インターフェロン製剤	慢性肝炎患者	製品の回収

【問 1 1 8】 副作用情報等の評価及び措置に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

各制度により集められた副作用情報については、(独)医薬品医療機器総合機構において (a) の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(b) は、(c) の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
1	専門委員	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会
2	薬事・食品衛生審議会	厚生労働大臣	専門委員
3	専門委員	薬事・食品衛生審議会	厚生労働大臣
4	薬事・食品衛生審議会	専門委員	厚生労働大臣
5	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会	専門委員

【問 1 1 9】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用による疾病のため、入院治療が必要と認められる場合であっても、やむをえず自宅療養を行った場合は、救済給付の対象とならない。
- b 個人輸入により入手した医薬品の使用による健康被害についても救済制度の対象となる。
- c 医薬品の不適正な使用による健康被害については、救済給付の対象とならない。
- d 一般用検査薬や殺虫剤・殺鼠剤は救済制度の対象とならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 1 2 0】 次の記述にあてはまる医薬品の適正使用のための啓発活動はどれか。

医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年 10 月 17 日～23 日の 1 週間、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施される。

- 1 「ダメ。ゼッタイ。」普及週間
- 2 薬と健康の週間
- 3 医薬品適正使用推進週間
- 4 セルフメディケーション普及週間